

ささやま医療センター（2週間コース）

曜日	内容	担当	集合時間	集合場所
月	ガイダンス※1週目 外来実習（初診・再診・AI問診・健診等）	指導医・上級医・研修医 外来看護師	8:30	2階会議室※1週目 外来受付A・健診センター等
	昼食・休憩			
	講義「地域における篠山キャンパスの役割について」 ※1週目	指導医・上級医・研修医 外来看護師	13:00	
	居宅サービスセンター※2週目	指導医・上級医		
火	外来実習（初診・再診・AI問診・健診等）	指導医・上級医・研修医 外来看護師	8:30	外来受付A・健診センター等
	昼食・休憩			
	居宅サービスセンター※2週目		13:00	
	担当患者 外来・病棟での症例振り返り レポート作成、自学自習			
水	外来実習（整形外科・リハ科）	指導医・上級医・研修医 外来看護師	8:30	外来受付A・健診センター等
	昼食・休憩			
	班別実習 （整形外科手術・リハビリセンター）	指導医・上級医・研修医 PT・OT・ST	13:00	
	地域総合医療学カンファレンス	指導医・上級医・研修医	16:00	第1会議室
木	老健回診 外来実習（初診・再診・AI問診・健診等）	指導医・上級医・研修医 外来看護師	8:30	老健事務室 外来受付A 健診センター等
	昼食・休憩			
	担当患者 外来・病棟での症例振り返り レポート作成、自学自習		13:00	
金	外来実習（初診・再診・AI問診・健診等）	指導医・上級医・研修医 外来看護師	8:30	外来受付A・健診センター等
	昼食・休憩			
	担当患者 外来・病棟での症例振り返り レポート作成、自学自習 ※最終日は実習成果発表・総括あり		13:00	

◎ 診療科名： ささやま医療センター（2週間コース）

◎ 責任者氏名： 藤岡 宏幸 病院長・主任教授

◎ 指導教員氏名： 後藤 雅史 准教授、中山 真美 准教授、
宮脇 淳志 准教授、井上 淳一 講師、
菅原 政貴 講師、中野 範 講師、
金田 好弘 助教、神原 俊一郎 助教、
松島 聡子 助教、道上 祐己 助教、
沖津 広樹 助教

◎ 実習概要

地域包括ケアとプライマリ・ケアの現場で業務に参加し、以下の実習を行う。

（1）診療実習

① 初診外来

- AI問診Ubieで入力された、問診、トリアージを使用して、臨床推論とトリアージを実習する。

② 再診及び継続外来、回復期入院症例

- 継続通院しているCommon diseaseのケースについて実習する。

③ 健診外来

- 健診受診者の各種測定や腹囲・内臓脂肪測定、眼底写真撮影等を担当する。

④ 多職種連携教育

- ささやまキャンパスでの実習期間中に医学部・薬学部・看護学部・リハビリテーション学部が合同で、地域基盤型の多職種連携実習を行う。

◎ 各診療科における到達すべき学修成果（アウトカム）

（臨床実習の授業概要「到達目標（アウトカム）」に準拠する）

【実習の目標】

1. ささやま医療センターの特長である地域医療、高齢者医療、プライマリ・ケアを学び、その中における総合診療科、内科、整形外科、リハビリテーション科の役割を学ぶ。
2. 地域における病院、リハビリテーションセンター、健診センター、老人保健施設および居宅サービスセンターの役割や機能を学ぶ。
3. 地域の住民との交流を通じて地域の課題を考え・意見を述べることができる。
4. 多職種の専門性を活かしたチーム医療を学ぶ。
5. 生と死について考え、アドバンス・ケア・プランニングについて理解する。
6. 様々な病気や障がいを持つ患者の気持ちやニーズを理解する。
7. 頻度や重要性の高い疾患の病因・病態を理解し、診断および治療方針説明できる。
8. 医療現場における様々なリスクを説明できる。

【ディプロマ・ポリシーと実習の関連】

- 安全・安心な医療に強い使命感と自律性を有し、優れた協調精神を持ってチーム医療の一員として社会の福祉に奉仕できる良医となるべき素養を涵養する。
- 医療を取り巻く社会経済的動向を把握し、地域医療の向上に貢献するとともに、地域の保健・医療・福祉・介護および行政等と連携協力できる。
- 人体や疾病に影響を与える社会的な要因や背景について理解し、支援扶助の社会的仕組みについて理解している。

◎ 準備学修ならびに事後学修に要する時間

- 「総合診療学」で学んだことを復習しておくこと（2時間）
- 「リハビリテーション医学」で学んだことを復習しておくこと（2時間）
- 「運動器系の疾患」で学んだことを復習しておくこと（2時間）

◎ 評価方法

（知識、技能、態度についてS、A、B、Cで評価。評価基準をルーブリックで明示）。

	S	A	B	C
	プライマリ・ケア、総合診療科、内科、整形外科、リハビリテーション科について	プライマリ・ケア、総合診療科、内科、整形外科、リハビリテーション科について	プライマリ・ケア、総合診療科、内科、整形外科、リハビリテーション科について	プライマリ・ケア、総合診療科、内科、整形外科、リハビリテーション科について

知識	十分に知識があり、診断治療方針を述べることができる。	知識があり、診断治療方針をある程度理解している。	知識がある。	知識が乏しい。
	地域医療の役割について十分に知識があり理解している。	地域医療の役割について理解している。	地域医療の役割についてある程度理解している。	地域医療の役割についてあまり理解していない。
技術	医学知識を臨床応用できるレベルに達している。	医学知識をある程度臨床応用できるレベルである。	医学知識を臨床応用するには少し不十分なレベルである。	医学知識が乏しく臨床応用することができない。
態度・実習の取組	実習に積極的に参加し周囲とのコミュニケーションが良好にできる。	実習に参加し周囲とのコミュニケーションできる。	実習に参加はしているが消極的である。	実習に興味を示さず欠席することがある。指導にも従わず危険な行為がみられる。

◎ パフォーマンス評価

実習中以下の評価を行う。

第2週の水曜日午後 プレゼンテーション試験、総括

◎ 中間評価とフィードバック

水曜日の総合診療科カンファレンスにてフィードバックを行う。

◎ 注意事項

- 実習初日8:30にささやま医療センター2階会議室に集合し、ガイダンスを行う。
- 1～6人に分かれて外来、病棟、手術、検査等を実習する日がある。各自の週間予定は、Moodle2の「配布資料」にあるささやま医療センターで割振っている実習

スケジュールを確認すること。

- 17:00～翌8:30 宿直実習（土日を含む）が入る場合あり。宿直翌日は「宿直明け休日」を設ける。

1. 実習開始前日からささやま医療センター付設の宿舎に泊まることを原則とする。
（前週の水曜日12:00までに西宮教学課にて宿泊手続きを行うこと）
2. 食費、着替え、洗面具などの準備が必要である。
（実習中の昼食は必ず前日に用意して朝持参すること）
3. ささやま医療センターへの交通手段は鉄道、自家用車とも自由であるが、後者の場合くれぐれも交通事故をおこさないように留意されたい。特に冬場は、積雪、凍結などの可能性があるため自家用車はできるだけ避けること。
4. 学生証及び健康保険証（写）（または遠隔地被扶養者証）は必ず持参すること。
5. 実りある二週間になるように、積極的かつ真摯な態度で実習に取り組んでもらいたい。
6. 最終総括終了後に以下の2点を提出する。
 - ①実習成果発表のパワーポイントデータ
 - ②実習における学びおよび感想
7. ハッピーマンデーの取り扱いについて
「敬老の日」、「成人の日」は、休診のため臨床実習は休講となる。
2024年9月16日（月）⇒休診のため臨床実習は休講
2025年1月13日（月）⇒休診のため臨床実習は休講
8. 新型コロナウイルス感染症対応等に関連して実習内容が変更になる場合あり。

<実習ローテーションについて>

通し番号	実習ローテーション
1、2、3	皮膚科（1週間）⇒ 泌尿器科（1週間）⇒ ささやま（2週間）
4、5、6	泌尿器科（1週間）⇒ 皮膚科（1週間）⇒ ささやま（2週間）
7、8	ささやま（2週間）⇒ 皮膚科（1週間）⇒ 泌尿器科（1週間）
9、10、11	ささやま（2週間）⇒ 泌尿器科（1週間）⇒ 皮膚科（1週間）

ささやま医療センター（地域枠4週間）

曜日	内容	担当	集合時間	集合場所
月	<p>初日ガイダンス</p> <p>1週目：リハビリ科</p> <p>2週目：老健・居宅サービスセンター この期間に当直を行う</p> <p>3週目：整形外科</p> <p>4週目：総合診療科</p>	<p>指導医・上級医・研修医 メディカルスタッフ</p>	8:30	2階会議室
火	<p>1週目：リハビリ科</p> <p>2週目：老健・居宅サービスセンター この期間に当直を行う</p> <p>3週目：整形外科</p> <p>4週目：総合診療科</p>	<p>指導医・上級医・研修医 メディカルスタッフ</p>	8:30	
水	<p>1週目：リハビリ科</p> <p>2週目：老健・居宅サービスセンター この期間に当直を行う</p> <p>3週目：整形外科</p> <p>4週目：総合診療科</p>	<p>指導医・上級医・研修医 メディカルスタッフ</p>	8:30	
木	<p>1週目：リハビリ科</p> <p>2週目：老健・居宅サービスセンター この期間に当直を行う</p> <p>3週目：整形外科</p> <p>4週目：総合診療科</p>	<p>指導医・上級医・研修医 メディカルスタッフ</p>	8:30	
金	<p>1週目：リハビリ科</p> <p>2週目：老健・居宅サービスセンター</p> <p>3週目：整形外科</p> <p>4週目：総合診療科</p> <p>※最終日は実習成果発表・総括あり</p>	<p>指導医・上級医・研修医 メディカルスタッフ</p>	8:30	

◎ 診療科名： ささやま医療センター（地域枠4週間）

◎ 責任者氏名： 藤岡 宏幸 病院長・主任教授

◎ 指導教員氏名： 後藤 雅史 准教授、中山 真美 准教授、
宮脇 淳志 准教授、井上 淳一 講師、
菅原 政貴 講師、中野 範 講師、
金田 好弘 助教、神原 俊一郎 助教、
松島 聡子 助教、道上 祐己 助教、
沖津 広樹 助教

◎ 実習概要

地域包括ケアとプライマリ・ケアの現場で業務に参加し、以下の実習を行う。

（1）診療実習

① 初診外来

- AI問診Ubieで入力された、問診、トリアージを使用して、臨床推論とトリアージを実習する。

② 再診及び継続外来、回復期入院症例

- 継続通院しているCommon diseaseのケースについて実習する。

③ 健診外来

- 健診受診者の各種測定や腹囲・内臓脂肪測定、眼底写真撮影等を担当する。

④ 多職種連携教育

- ささやまキャンパスでの実習期間中に医学部・薬学部・看護学部・リハビリテーション学部合同で、地域基盤型の多職種連携実習を行う。

◎ 各診療科における到達すべき学修成果（アウトカム）

（臨床実習の授業概要「到達目標（アウトカム）」に準拠する）

【実習の目標】

1. ささやま医療センターの特長である地域医療、高齢者医療、プライマリ・ケアを学び、その中における総合診療科、内科、整形外科、リハビリテーション科の役割を学ぶ。
2. 地域における病院、リハビリテーションセンター、健診センター、老人保健施設および居宅サービスセンターの役割や機能を学ぶ。
3. 地域の住民との交流を通じて地域の課題を考え・意見を述べることができる。
4. 多職種の専門性を活かしたチーム医療を学ぶ。
5. 生と死について考え、アドバンス・ケア・プランニングについて理解する。
6. 様々な病気や障がいを持つ患者の気持ちやニーズを理解する。
7. 頻度や重要性の高い疾患の病因・病態を理解し、診断および治療方針説明できる。
8. 医療現場における様々なリスクを説明できる。

【ディプロマ・ポリシーと実習の関連】

- 安全・安心な医療に強い使命感と自律性を有し、優れた協調精神を持ってチーム医療の一員として社会の福祉に奉仕できる良医となるべき素養を涵養する。
- 医療を取り巻く社会経済的動向を把握し、地域医療の向上に貢献するとともに、地域の保健・医療・福祉・介護および行政等と連携協力できる。
- 人体や疾病に影響を与える社会的な要因や背景について理解し、支援扶助の社会的仕組みについて理解している。

◎ 準備学修ならびに事後学修に要する時間

- 「総合診療学」で学んだことを復習しておくこと（2時間）
- 「リハビリテーション医学」で学んだことを復習しておくこと（2時間）
- 「運動器系の疾患」で学んだことを復習しておくこと（2時間）

◎ 評価方法

(知識、技能、態度についてS、A、B、Cで評価。評価基準をルーブリックで明示)。

	S	A	B	C
知識	プライマリ・ケア、総合診療科、内科、整形外科、リハビリテーション科について十分に知識があり、診断治療方針を述べるができる。	プライマリ・ケア、総合診療科、内科、整形外科、リハビリテーション科について知識があり、診断治療方針をある程度理解している。	プライマリ・ケア、総合診療科、内科、整形外科、リハビリテーション科について知識がある。	プライマリ・ケア、総合診療科、内科、整形外科、リハビリテーション科について知識が乏しい。
	地域医療の役割について十分に知識があり理解している。	地域医療の役割について理解している。	地域医療の役割についてある程度理解している。	地域医療の役割についてあまり理解していない。
技術	医学知識を臨床応用できるレベルに達している。	医学知識をある程度臨床応用できるレベルである。	医学知識を臨床応用するには少し不十分なレベルである。	医学知識が乏しく臨床応用することができない。
態度・実習の取組	実習に積極的に参加し周囲とのコミュニケーションが良好にできる。	実習に参加し周囲とのコミュニケーションできる。	実習に参加はしているが消極的である。	実習に興味を示さず欠席することがある。指導にも従わず危険な行為がみられる。

◎ パフォーマンス評価

実習中以下の評価を行う。

第4週の金曜日午後 プレゼンテーション試験、総括

◎ 中間評価とフィードバック

水曜日の総合診療科カンファレンスにてフィードバックを行う。

◎ 注意事項

- 実習初日8:30にささやま医療センター2階会議室に集合し、ガイダンスを行う。
 - 外来、病棟、手術、検査等を実習する日がある。各自の週間予定は、Moodle2の「配布資料」にあるささやま医療センターで割振っている実習スケジュールを確認すること。
 - 17:00~翌8:30 宿直実習(土日を含む)が入る場合あり。宿直翌日は「宿直明け休日」を設ける。
1. 実習開始前日からささやま医療センター付設の宿舎に泊まることを原則とする。
(前週の水曜日12:00までに西宮教学課にて宿泊手続きを行うこと)
 2. 食費、着替え、洗面具などの準備が必要である。
(実習中の昼食は必ず前日に用意して朝持参すること)
 3. ささやま医療センターへの交通手段は鉄道、自家用車とも自由であるが、後者の場合くれぐれも交通事故をおこさないように留意されたい。特に冬場は、積雪、凍結などの可能性があるため自家用車はできるだけ避けること。
 4. 学生証及び健康保険証(写)(または遠隔地被扶養者証)は必ず持参すること。
 5. 実りある二週間になるように、積極的かつ真摯な態度で実習に取り組んでもらいたい。
 6. 最終総括終了後に以下の2点を提出する。
 - ①実習成果発表のパワーポイントデータ
 - ②実習における学びおよび感想
 7. ハッピーマンデーの取り扱いについて
「海の日」、「スポーツの日」、「敬老の日」、「成人の日」は、休診のため臨床実習は休講となる。
 - 2024年9月16日(月)⇒休診のため臨床実習は休講
 - 2025年1月13日(月)⇒休診のため臨床実習は休講
 8. 新型コロナウイルス感染症対応等に関連して実習内容が変更になる場合あり。

2024 年度臨床実習 ささやま医療センター・地域総合医療学講座

【ささやま医療センターについて】

兵庫医科大学は1997（平成9）年10月に国立篠山病院を引き継いで兵庫医科大学篠山病院を開設しました。1999（平成11）年6月にリハビリテーションセンター、同年9月には老人保健施設を開設しました。2010（平成22）年6月には篠山病院からささやま医療センターへ改称するとともに移転開院し、2016（平成28）年1月には居宅サービスセンターを開設しました。大学が地域拠点病院を中心にして、人口減少・高齢化の進む地域医療を実践するとともに教育を行うという全国に先駆けた先進的な取り組みです。

兵庫医科大学は創設者森村茂樹先生が建学の精神「社会の福祉への奉仕」「人間への深い愛」「人間への幅の広い科学的理解」のもとに1972（昭和47）年4月に開学し50周年を迎えました。ささやま医療センターも篠山病院から数えて25周年を迎えました。兵庫医科大学は次の50年に向かって「EMPOWER THE PEOPLE～心に響く医を、私たちがいるかぎり～」をスローガンに地域に住むすべての人が住み慣れた地域でその人らしく充実した生活をできるように、教職員全員が医学・医療を通じて地域・社会に貢献します。

ささやま医療センターでは、総合診療科による内科診療を中心に整形外科およびリハビリテーションが一体となって、病院、リハビリテーションセンター、老人保健施設および居宅サービスセンターを運営しています。

診断治療に難渋する症例や高度先進医療を必要とする症例などについては、患者紹介や医師応援も含めて兵庫医科大学病院（西宮本院）と緊密に連携して対応しています。循環器内科、消化器内科、肝胆膵内科、糖尿病内分泌代謝免疫内科、呼吸器内科、血液内科、脳神経内科、リウマチ膠原病内科、産婦人科、精神神経科、泌尿器科、眼科などについては、非常勤医師を派遣していただき、診療、教育を行っています。

また、質の高い地域医療を持続するためには多職種連携を実践できる人材育成が重要です。兵庫医科大学医学部、薬学部、看護学部、リハビリテーション学部の学生に多職種連携教育を行うとともに、直面する様々な課題を解決する研究を展開して、学生、医師、メディカルスタッフを教育しています。

地域のみなさまから信頼される兵庫医科大学ささやま医療センターを目指して教職員一同努力しています。

連絡先：ささやま医療センター管理課（担当：福島） 079-552-1181

- 急病・体調不良等の緊急連絡、実習全般における連絡、実習中に困ること等があれば、ささやま管理課へ申し出ること。
- 実習内容において困ることや相談がある場合には、待機場所の図書室にある内線番号表で学生用 PHS を用いて指導医等に直接連絡すること。